

# 三条市役所品質

## I 行動規範「三条市役所品質」の求めるもの

私たちは、「行政のプロフェッショナル」として、それぞれの職位、職種に求められている成果を確実に出し続けることが求められている。そのため、私たちは「仕事の成果」に着目し、仕事で確実に期待される成果を出し続けることのできる組織を構築するために必要な要素について、「仕事の成果＝「考え方」×「熱意」×「能力」という基本的な考え方の下、再び原点に戻り、社会人としての土台、公務員としての土台、さらに三条市職員としての土台を構築するための行動規範「三条市役所品質」を策定するものである。

私たち職員一人一人が「三条市役所品質」に沿って、確実に業務を遂行することが、仕事での成果につながり、公務員としての矜持や喜びを得ることにもつながるものと信じている。

総合計画に掲げる将来都市像の実現

品質(提供するサービス)向上

公務員としての矜持(誇り・プライド)・喜び

三条市役所品質  
(仕事で成果を出し続けるための行動規範)

仕事の成果 = 「考え方」×「熱意」×「能力」

# II 行動規範「三条市役所品質」

## 《行動規範「三条市役所品質」の構成》

### (1) 考え方

- ア 人として何が正しいかで判断する
- イ 信頼関係を構築する
- ウ ものごとをシンプルに考える
- エ 王道を歩む
- オ 組織人としての自覚を持つ

#### 1 社会人としての土台

- ア 市民目線に立つ
- イ 事業の透明性を確保する
- ウ 業務の効率性を追求する

#### 2 地方公務員としての土台

- ア 三条市らしさを追求する
- イ 一人一人が三条市役所
- ウ スピード感を持って決断し実行する
- エ 成果主義に徹する
- オ 明るく楽しく元気よく

#### 3 三条市職員としての土台

### (2) 熱意

- ア 信念を持って仕事に打ち込む
- イ 向上心を持つ

- ア 全体の奉仕者としての使命感に燃える

- ア 三条市愛を貫く
- イ 自分の仕事をいとおしむ
- ウ 積極果敢に挑戦する

### (3) 能力

- ア マネジメント能力を身に付ける
- イ 社交性を身に付ける
- ウ 読む力、書く力、話す力(説明能力)を身に付ける

- ア 正確かつ公平・公正な事務執行能力を身に付ける
- イ 組織の目的を正しく理解し、自分の達成すべき目標を設定できる能力を身に付ける

- ア 始動力(リーダーシップ)を発揮する
- イ 課題解決力を鍛える

# 1 社会人としての土台

## (1) 考え方

### ア 人として何が正しいかで判断する

正・不正、善・悪などは人の最も基本的な判断基準であり、子どもの頃から両親や先生に繰り返し教えてもらい、自分の血や肉となっている最も大切かつ普遍的な規範である。

これに則っていれば、経験や知識はなくとも、大きく間違った判断には至らない。

日常で起こる様々な局面において、まずこのものさしで測り行動していかなければならない。

その上で、相手に満足してもらう仕事をするためには、相手の求めに応じて対応するといった受身の姿勢ではなく、相手の立場、状況、望む事を想定し、私なら「〇〇をして欲しい」ということを行動に移すことが大切である。

そのため、よく人を観察し、想像力を働かせ、相手の行動を先読みして行動するなど、常に相手に思いを巡らせ、ちょっとした気遣いや心配りのある行動をとらなければならない。

- 正・不正、善・悪を意識する
- 次代に恥じない行動をする
- 相手のことを理解した上で行動を先読みする
  - ・よく人を観察し、想像力を働かせる
  - ・先入観で判断しない
- 我を押し付けない
- 自分から壁をつくらない
  - ・周りを見る余裕を持つ

### イ 信頼関係を構築する

人間関係は信頼が基本であり、仕事をする上で相手との信頼関係を築くことは必要不可欠である。

そのため、他人から認められ、受け入れられるための基本的なこととして、社会人としての最低限の常識や礼儀といったモラルを持ち、人の気持ちに答えるような行動をとらなければならない。

- 陰ひなたなく行動する
- 社会人としての最低限のマナーを身に付ける
  - ・適宜適切なあいさつをする
  - ・信頼感につながる身だしなみを心がける
- 社会人としてのモラルを持つ
  - ・社会や組織のルールを守る
  - ・公私混同をしない
- 相手の期待に応える
  - ・嘘をつかない
  - ・有言実行する
  - ・相手の言いたいことや要求を正しく理解し、それに即した対応をする

### ウ ものごとをシンプルに考える

一見複雑に見える物事であっても本質は単純であり、様々な課題は因数分解すればするほど課題の本質が見えてくる。

複雑に思えるものほど、意識してシンプルに捉え直そうとしていく姿勢が大切である。

- 常に目的を意識する

## ■俯瞰的に大きく捉える

### エ 王道を歩む

「行不由徑（行くに徑に由らず）」の精神を忘れない。

仕事のあらゆる場面において、近道を求めたり小細工を施したりせず、正しいと思った方針に基づき正々堂々と進めていくことが王道であり、王道を歩むことで正しい成果を生み出すことができる。

良質な成果へ至るための近道などあり得ない。情熱を持ち続け、生真面目に地道な努力を続ける。このいかにも愚直な行動こそが王道であり、その王道を歩み続けなければならない。

■あるべき姿への思いを貫く

■逃げ道を探さない

### オ 組織人としての自覚を持つ

仕事で成果を出すためには、一人一人が組織の一員としての自覚を持ち、それぞれの職務責任を果たすことが重要である。

それが仕事の能率を高め、組織の持つ力の最大化につながることから、自己の都合や身勝手な価値判断基準で物事を決めず、組織の一員として果たすべき役割をしっかりと認識し、行動するという仕事の基本を忠実に実践しなければならない。

■自らの職責を認識し、確実にそれを全うする

■上司の命令に忠実に従う

■報告・連絡・相談を適宜、適切に行う

## (2) 熱意

### ア 信念を持って仕事に打ち込む

信念を持って仕事に打ち込むとは、組織の目標達成に向けて、仕事と真剣に向き合い、精一杯の力を尽くすことである。

これは、私心で仕事を選ぶことなく、また、不平不満を口にせず、与えられた職務を忠実に全うするという当たり前のことを意味しているが、決して、盲従せよということではない。

よりよい成果を上げるためにはどうすればよいのかを真剣に考え、信念を持って実践していかなければならない。

■私心を持たずに仕事に当たる

■仕事に集中する

■受動的ではなく主体的に考える

■期待に応えるために精一杯の努力をする

### イ 向上心を持つ

仕事をより円滑に進めるためには、自分の能力や知識をより高いレベルに引き上げる必要がある。

能力は鍛えれば進歩し、怠れば退歩していくことから、自分で自分の限界をつくることなく、高い目標を持ち、その実現に向けて努力をしなければならない。

また、必要な能力は常に変化することから、求められる能力が何かを常に確認することも大切である。

そして、自らの成長に最大の責任を持つ者は、本人であって組織ではないことから、期待される成果を確実に出し続けるために何をすべきか、自ら問い、地味な努力を積み重ねなければならない。

■求められる知識、能力に対し、自分に欠けているものが何かを認識する

- ・求められる知識や能力は何かを把握する

■求められる知識・能力を確実に習得する

- ・試験等により、習得度合いを確認する
- ・試験等は、合格するまで受け続ける

(3) 能力

**ア マネジメント（自己管理）能力を身に付ける**

マネジメントとは、様々な資源・資産・リスクを管理し、効果を最大化する手法のことであり、仕事をする上で私たちは自己管理能力が求められる。

限られた就業時間の中で結果を出すためには、仕事に優先順位を付け、スピーディーかつ確実に一つ一つこなしていく能力を身に付けなければならない。

- 時間の管理を徹底する
- 仕事の進捗管理を徹底する
- 仕事に専念するための環境を整える
- 体調の管理に責任を持つ
- 仕事に対する意欲をコントロールする
- スキルの維持、向上を図る

**イ 社交性を身に付ける**

仕事をする上では、自分の意見を持ちつつ、相手の立場も尊重し、円滑に物事を進めることができる柔軟な対応が求められる。

そのため、様々な価値観を知り、それを認め、それを受け入れる姿勢とそれを消化できるだけの柔軟な発想を持った社交性を身に付けなければならない。

- 組織の枠にとらわれず、視野を広げる
- 切磋琢磨する（単なる仲良しクラブにならない）
- どんな場でも発言できる力を養う
- 臨機応変な対応をする

**ウ 読む力、書く力、話す力（説明能力）を身に付ける**

文章や情報を正確に読み取り正しく理解する「読む力」、相手に伝えたい内容を論理的に整理し、分かりやすく簡潔な文章で伝える「書く力」、場面に応じて必要な情報を取捨選択し、分かりやすく相手に伝える「話す力」は、仕事をする上で必要な基本的な能力である。しかし、これらが未熟なために支障を来すことも往々にしてある。

こうした能力は自然と身に付くものではないことを理解し、具体的に何をすべきかを考え、貪欲に学び、自分の能力を高めていかなければならない。

- 正しい日本語を身に付ける
- 相手（文章等の作成者）が伝えたい思いは何かを考えて読む
- 伝えたい内容を明確にする
- 分かりやすく簡潔な文章を書く
- 相手の目線で考え、話す

## 2 地方公務員としての土台

### (1) 考え方

#### ア 市民目線に立つ

私たちは市民の皆様と接する様々な場面で、その方が何を望まれているかを考え、そのときにできる最善解を導き出し、行動していかなければならない。市民満足度は、そうした行動一つ一つで測られるものである。より満足していただけるサービスを提供していくためには、自らの業務に係る知識を高めていくことはもちろん、相手の立場に立って考える姿勢を持たなければならない。

- 相手の立場に立って考える
- 自らの業務に係る知識を深める
- 市民（利用者）のニーズの把握
- 縦割りの弊害の排除

#### イ 事業の透明性を確保する

私たちが身を置く地方自治においては、住民自らが政治に参加することによって、住民の意思を反映させること（民主主義）が理想とされている。

その実現には、住民の民主主義に対する熟度を高めていくことと併せ、住民との信頼性を確保することを念頭に業務を遂行することが求められる。

そのため、事業の透明性を確保するとともに、説明責任をしっかりと果たしながら、住民の行政への参画意識を醸成していかなければならない。

- 行政としての説明責任を果たす
  - ・情報を積極的に公開・発信する
- 住民の参画意識を醸成する

#### ウ 業務の効率性を追求する

地方自治体は、住民からの税を行政サービスとして還元し、住民の福祉の増進に努めなければならない。最少の経費で最大の効果を上げることが、結果として自治体の価値となる。

人口減少や少子高齢社会の到来による社会経済状況が変化中、行政運営における効率性の徹底が従前にも増して必要となることから、常に費用対効果を考え、効率的に事務を執行していかなければならない。

- コスト意識を持つ
- 費用対効果を考える
- 業務の効率化を考え、実践する

### (2) 熱意

#### ア 全体の奉仕者としての使命感に燃える

全ての職員は、全体の奉仕者として公共の利益のために勤務し、かつ、職務の遂行に当たっては全力を挙げてこれに専念しなければならない。

この崇高な使命を深く自覚し、自らの行動をコントロールしなければならない。

- 公務員としてのプライドを持つ
- 私事より公務を優先する

### (3) 能力

#### ア 正確かつ公平・公正な事務執行能力を身に付ける

私たちの仕事の基本は、法令等に基づいて事務を執行することである。

公務員が全体の奉仕者としてその責務を全うするという事は、法令等に従い事務執行に当たる行政組織の中で、その与えられた役割を忠実に果たすことであり、それは権力の行使を意味する。

このことを自覚し、事務処理の根拠となる法令等を正しく解釈し、理解した上で事務を執行しなければならない。

■ **思い込みで事務処理をしない**

- ・ 根拠法令を正しく理解する
- ・ 「今までと同じだから」「〇〇さんから聞いた」で事務を執行するのではなく、自ら確認し、正しい事務処理方法等を理解した上で執行する

■ **徹底的に確認をする**

**イ 組織の目的を正しく理解し、自分の達成すべき目標を設定できる能力を身に付ける**

組織（市・部・課）に求められる成果を確実に出すためには、職員一人一人がその目的を正しく理解し、その実現に向けて自分が担い、達成すべき目的を明確にしなければならない。

■ **自ら取り組むべきことを明確にした上で、確実にそれを達成する**

### 3 三条市職員としての土台

#### (1) 考え方

##### ア 三条市らしさを追求する

個性豊かで活気に満ちあふれ、安心して暮せるまちとして発展し続けるためには、世界の均質化に抗い、三条市が三条市で在り続けるために欠かすことのできないこのまちのアイデンティティを将来にわたり持続可能なものにしていかなければならない。

- 当市のアイデンティティである“ものづくり”にこだわる
- 市勢、歴史、文化等を知る

##### イ 一人一人が三条市役所

持てる能力の全てを傾注し、熱意を持って仕事を進めても、その到達点が本来の目的地と違っては何にもならない。

私たちが目指すべき到達点とは、取りも直さず、市長の方針である。選挙で市民の皆様への負託を受けた市長の政策目標、方針を正しく理解し、補助職員として効率的にそこに向けて事務を執行していかなければならない。

また、職員は、一人一人が「三条市役所」そのものであり、「組織を形作る市役所の顔である」という意識を持って、自己の業務に当たっていくことはもちろん、市民の皆様へ接していかなければならない。

- 市長の補助職員であることを常に意識して仕事をする
- 常に市長の頭の中とシンクロする
- 市役所（三条市）の代表意識を持つ
- 三条市職員として恥じない行動をとる

##### ウ スピード感を持って決断し実行する

「今日の常識は明日の非常識」と揶揄されるように、世の中が絶えず目まぐるしく変化する中、生き残るのは強いものではなく、逸早く変化したものである。スピードが全てを制するといわれるように、時代と共に変化し続けるスピード感こそが強みとなる。

そのため、仕事が遅いことは致命的である。自分のスピードで仕事をするのではなく、組織の期待に応えるためのスピードとはいつまでに成果を上げることなのか、また、時間もコストであるという認識に立って仕事を進めなければならない。

- いつまでに成果を出すべきかを考える
- 完璧よりも速さを重視する

##### エ 成果主義に徹する

仕事は、その対価として報酬を得ることから、報酬を得る以上、期待される成果を出し続ける必要があり、成果を上げることに責任を負わなければならない。

仕事で成果を出すためには、それぞれの職務、職責に対する組織の期待に対し、上げるべき成果を明確にし、あるべき姿に向けて、ありとあらゆる視点で考え、妥協することなく、完璧を目指さなければならない。

- 仕事の成果は、結果が全てであるということを自覚する
  - ・果たすべき役割を認識する
  - ・上げるべき成果とは何かを理解する
  - ・成果を出し続けるために必要なことを考え、実践する
- 自分を追い込む
  - ・上げるべき成果・目標を宣言する

## ■パーフェクトを目指す

- ・あるべき姿を明確化させる
- ・ありとあらゆる視点で考える
- ・艱難辛苦を乗り越える

## オ 明るく楽しく元気よく

市役所は市民の皆様のためにあり、市民の皆様へのサービスを向上させていくことこそが目的であるとされるが、サービスをより向上させていくには、それが人（職員）から人（市民）へ提供されるものである以上、笑顔が必須である。

職員自らが仕事を楽観的に楽しみ自然な笑顔を持つことが、成果を更に良質なものとしていく。楽観は最高の勇気である。職員一人一人が、自らの仕事に対し「明るく 楽しく 元気よく」臨む姿勢が肝要である。

- 目標の達成を喜びと感じる
- 人から頼られることを喜びと感じる
- 笑顔で前を向く

## (2) 熱意

### ア 三条市愛を貫く

私たちは、三条市の職員である。良い仕事とは、取りも直さず三条市民に満足をしてもらうことであり、三条市のために、三条市民のために尽くすことが使命である。

三条市への愛着や誇り、三条市のために、そこで暮らす市民のために尽くしたいという情熱こそが、自らの使命を奮い立たせる原動力となるものである。

三条市を愛するという事は、三条市のためになることを考え、三条市のために働くことであり、私たちの使命に他ならない。

- 三条市のために、三条市民のためにを最優先に考える

### イ 自分の仕事をいとおしむ

時に苦しくとも、必ず達成の喜びを与えてくれるものが仕事である。たとえどのような小さな達成であっても、それを重ねていくことでその仕事への愛着が増し、こうしたポジティブな思考が良質な成果にもつながる。

熱意を持って仕事に没頭し、自分の仕事をいとおしくさえ思える境地に至ることこそが仕事に対するプライドである。

- 自分の仕事に誇りを持つ
- 達成した理想の姿をイメージする
- 達成感を噛み締める
- 仕事の一つ一つの工程を大切に（やっつけ仕事にしない）

### ウ 積極果敢に挑戦する

このまちの発展や当組織が成長するためには、必要な変革や求められる取組等に対して、できない理由を探し、それを正当化するのではなく、自ら進んで、勇気を持って課題に立ち向かうという強い気持ちを持たなければならない。

- 組織としての信念を貫く
- 議論をいとわない
- 失敗を恐れぬ

### (3) 能力

#### ア 始動力（リーダーシップ）を発揮する

混迷する時代を切り開くために必要なのは真のリーダーシップである。

真のリーダーシップとは、単に組織を率いる力ではなく、一人でも果敢にチャレンジする精神であり、特に前例や組織のしがらみにとらわれず、軋轢を恐れず変革を推進していかなければならない。

- 進むべき明確な道筋を示す
- 率先して変革行動を起こす
- 自分が正しいと思うことを広げるための工夫をする

#### イ 課題解決力を鍛える

目まぐるしく変わる社会情勢の中、現状維持は退歩の始まりであり、変化に対応した政策・施策の構築が求められる。

変化するということは、それまでと違う状態になるということであり、今までのルールや基準が通用しないということである。

そのため、これまでの知識や経験の延長線上でもなく、今のままのやり方や常識に捉われず、新たな発想と思考の枠組みを創り出さなくてはならない。

- 現状を見える化する
- 物事の本質を見極める
- 固定概念（既成概念）にとらわれない
- 情報を収集するためのアンテナを研ぎ澄ます

「三条市役所品質」セルフ・チェックシート

「三条市役所品質」を保証するためにとらなければならない主な行動

	(1) 考え方	(2) 熱意	(3) 能力
1 社会人としての土台	<p><b>ア 人として何が正しいかで判断する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■正・不正、善・悪を意識する                     <ul style="list-style-type: none"> <li>□親から子へ語り継がれる道義、古くからの倫理・道徳に照らし考える。</li> </ul> </li> <li>■次代に恥じない行動をする                     <ul style="list-style-type: none"> <li>□取り組んでいる物事が将来に向けてどうあるべきかを考え行動する。</li> </ul> </li> <li>■相手のことを理解した上で行動を先読みする                     <ul style="list-style-type: none"> <li>□自分がされたらうれしいと思うことを相手に対しても行動で示す。</li> <li>□行動パターンや仕事の手順等を押さえ、常に「次」を考えた予定よりも早めの行動をとる。</li> </ul> </li> <li>■我を押し付けない                     <ul style="list-style-type: none"> <li>□私利やわがままを言い張らない。</li> <li>□相手が求めていることは何かをよく考えて行動する。</li> <li>□相手の考えや立場を尊重する。</li> </ul> </li> <li>■自分から壁をつくらない                     <ul style="list-style-type: none"> <li>□常に周りをよく観察し、困っている人には積極的に自分から声をかける。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>イ 信頼関係を構築する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■陰ひなたなく行動する                     <ul style="list-style-type: none"> <li>□人の見ているところと見ていないところで態度や行動を変えない。</li> </ul> </li> <li>■社会人としての最低限のマナーを身に付ける                     <ul style="list-style-type: none"> <li>□返事をする。</li> <li>□目を見て話す。</li> <li>□笑顔であいさつをする。</li> <li>□清潔感のある服装をする。</li> </ul> </li> <li>■社会人としてのモラルを持つ                     <ul style="list-style-type: none"> <li>□締切日や約束を守る。</li> <li>□仕事中にプライベートなことをしない。</li> <li>□交通違反を始め、非行と非難されるような行動をとらない。</li> <li>□会議等においては、遅刻や欠席をしない。やむを得ず遅刻や欠席となる場合は、事前に連絡をする。</li> </ul> </li> <li>■相手の期待に応える                     <ul style="list-style-type: none"> <li>□言い訳やその場しのぎの対応をしない。</li> <li>□困っている人に声をかけ、できる限りのサポートをする。</li> <li>□思い込みで物事を進めず、相手の求めが正しく理解できるまで確認する。</li> <li>□同じ失敗を繰り返さない。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>ウ ものごとをシンプルに考える</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■常に目的を意識する                     <ul style="list-style-type: none"> <li>□迷ったら、そもそもの目的に帰る。</li> </ul> </li> <li>■俯瞰的に大きく捉える                     <ul style="list-style-type: none"> <li>□一步離れて客観的にイメージし直す。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>エ 王道を歩む</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■あるべき姿への思いを貫く                     <ul style="list-style-type: none"> <li>□あるべき姿を追求し続ける</li> <li>□正々堂々と臨む。言い訳をしない。</li> <li>□一所懸命に、真面目に、正直に取り組み、努力する。</li> </ul> </li> <li>■逃げ道を探さない                     <ul style="list-style-type: none"> <li>□楽な方にぶれない。</li> <li>□姑息な手段を使わない。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>オ 組織人としての自覚を持つ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■自らの職責を認識し、確実にそれを全うする                     <ul style="list-style-type: none"> <li>□上司に命じられた職場における自分の事務分担を正しく認識する。</li> <li>□朝仕事に向かう際には今日やるべきことを、退庁時には明日やるべきことを具体的にイメージする。</li> </ul> </li> <li>■上司の命令に忠実に従う                     <ul style="list-style-type: none"> <li>□仕事上の上司の指示・命令には確実に従う。</li> </ul> </li> <li>■報告・連絡・相談を適宜、適切に行う                     <ul style="list-style-type: none"> <li>□苦情や問題が生じた際、上司に直ちに報告する。</li> <li>□直属の上司以外からの仕事に関する指示があった際は、必ず直属の上司に報告する。</li> <li>□与えられている権限を越えた判断をしない。</li> <li>□事業の実施に当たり、関係課・者と協議する。</li> <li>□事業を進める前に上司と方向感を共有する。</li> <li>□仕事が上手く進んでいても定期的に上司に報告する。</li> </ul> </li> </ul>	<p><b>ア 信念を持って仕事に打ち込む</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■私心を持たずに仕事にあたる                     <ul style="list-style-type: none"> <li>□与えられたミッションに対し、「できない」ではなく、達成するための方策を考える。</li> </ul> </li> <li>■仕事に集中する                     <ul style="list-style-type: none"> <li>□仕事に行き詰った際、現実逃避をすることなく、その原因を掘り下げて考える。</li> <li>□完全に分かるまで確認し、同じことを何回も聞かない。</li> </ul> </li> <li>■受動的ではなく主体的に考える                     <ul style="list-style-type: none"> <li>□まず、自分で考えてみる。</li> <li>□より高い事業効果を出すために、様々な角度から現状を分析する。</li> </ul> </li> <li>■期待に応えるために精一杯の努力をする                     <ul style="list-style-type: none"> <li>□失敗を恐れずに何回でも挑戦する。</li> <li>□途中で仕事を投げ出さない。</li> <li>□上司が判断するための材料が何かをしっかりと考え、過不足なく揃えた上で、報告・提案する。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>イ 向上心を持つ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■求められる知識、能力に対し、自分に欠けているものが何かを確認する                     <ul style="list-style-type: none"> <li>□積極的に検定試験に挑戦し、自分のレベルを確認する。</li> <li>□他の人の行動や言動等で「すごい」と感じたことを、自らのものにするための努力をする。</li> </ul> </li> <li>■求められる知識・能力を確実に習得する                     <ul style="list-style-type: none"> <li>□組織が提供する研修のほかにも、自ら通信教育等を活用し、知識・能力の向上を図る。</li> <li>□疑問に思うことは、徹底的に分かるまで調べる。</li> <li>□講演会や研修会等に積極的に参加する。</li> </ul> </li> </ul>	<p><b>ア マネジメント(自己管理)能力を身に付ける</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■時間の管理を徹底する                     <ul style="list-style-type: none"> <li>□突発的な問題等が生じることも想定した上で、日、週、月、年の各レベルで計画を立てて事務を執行する。</li> </ul> </li> <li>■仕事の進捗管理を徹底する                     <ul style="list-style-type: none"> <li>□処理すべきことを時系列に具体的に整理し、それを上司・同僚・関係者と共有した上で、その進捗状況を定期的に報告する。</li> <li>□常に、取組の進捗状況を確認し、目的と取組にズレが生じていないか確認する。</li> </ul> </li> <li>■仕事に専念するための環境を整える                     <ul style="list-style-type: none"> <li>□机の上は、書類等を山積みしない。</li> <li>□プライベートを仕事に持ち込まない。</li> </ul> </li> <li>■体調の管理に責任を持つ                     <ul style="list-style-type: none"> <li>□土日はきちんと休み、休暇も有効に活用する。</li> <li>□仕事に支障を来たさないよう、規則正しい生活を送る。</li> <li>□不調と感じた時点ですぐに医師の診断を受ける。</li> </ul> </li> <li>■仕事に対する意欲をコントロールする                     <ul style="list-style-type: none"> <li>□小さな目標をたくさん持ち、一つ一つ達成する。</li> <li>□結果を素直に受け止め、例えそれが失敗であったとしても、いつまでも引きずらずに二度と繰り返さないための方策を考える。</li> </ul> </li> <li>■スキルの維持、向上を図る                     <ul style="list-style-type: none"> <li>□限られた就業時間の中で効率的に仕事をする。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>イ 社交性を身に付ける</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■組織の枠にとらわれず、視野を広げる                     <ul style="list-style-type: none"> <li>□所属以外の組織の人と情報交換する。</li> </ul> </li> <li>■切磋琢磨する(単なる仲良しクラブにならない)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>□摩擦を恐れず、自分が正しいと思ったことを自信を持って主張する。</li> </ul> </li> <li>■どんな場でも発言できる力を養う                     <ul style="list-style-type: none"> <li>□常に自分の意見を持ち、誰の前であっても臆せず発言する。</li> </ul> </li> <li>■臨機応変な対応をする                     <ul style="list-style-type: none"> <li>□間違いと気付いたときは、素直に間違いを認め行動を改める。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>ウ 読む力、書く力、話す力(説明能力)を身に付ける</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■正しい日本語を身に付ける                     <ul style="list-style-type: none"> <li>□日頃から文庫、新書等の論説文を読む。</li> <li>□日頃から「文書づくりの手引き」等を確認し、文章を書く。</li> </ul> </li> <li>■相手(文章等の作成者)が伝えたい思いは何かを考えて読む</li> <li>■伝えたい内容を明確にする                     <ul style="list-style-type: none"> <li>□常に、相手に伝えたい結論を意識して書き、または話す。</li> </ul> </li> <li>■分かりやすく簡潔な文章を書く                     <ul style="list-style-type: none"> <li>□多くの情報を盛り込みすぎて一文が長くなることのないようにする。</li> <li>□なるべく横文字、難解語、専門用語を使わず、誰にでもわかる言葉に置き換える。</li> </ul> </li> <li>■相手の目線で考え、話す</li> </ul>

<p>2 地 方 公 務 員 と し て の 土 台</p>	<p>ア 市民目線に立つ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■相手の立場に立って考える <ul style="list-style-type: none"> <li>□自分が相手ならどう感じるかということを常に意識して対応する。</li> </ul> </li> <li>■自らの業務に係る知識を深める <ul style="list-style-type: none"> <li>□自身の携わる業務について、業務手順だけを覚えるのではなく、何に基づいて行われている業務なのかをしっかりと把握し、常に自らの業務に係る知識を深める。</li> </ul> </li> <li>■市民（利用者）のニーズの把握 <ul style="list-style-type: none"> <li>□地域のイベントや自治会の集まり等に積極的に参加するなど、市民の考えを肌感覚として感じる機会を持つ。</li> </ul> </li> <li>■縦割りの弊害の排除 <ul style="list-style-type: none"> <li>□縦割りで物事を考えず、業務の目的や効果を考え、積極的に他課等と連携する。</li> </ul> </li> </ul> <p>イ 事業の透明性を確保する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■行政としての説明責任を果たす <ul style="list-style-type: none"> <li>□ホームページには常に最新の情報を載せる。</li> <li>□事業実施に当たっては、その趣旨が確実に浸透するよう効果的に周知する。</li> </ul> </li> <li>■住民の参画意識を醸成する <ul style="list-style-type: none"> <li>□市民から関心を持ってもらえるような情報発信をする。</li> </ul> </li> </ul> <p>ウ 業務の効率性を追求する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■コスト意識を持つ <ul style="list-style-type: none"> <li>□人件費が最大の原価であることを常に意識し、少しでも短い時間で仕事を終えるようにする。(安易な残業はしない。)</li> <li>□ミスや手戻りを徹底的に減らす。</li> </ul> </li> <li>■費用対効果を考える <ul style="list-style-type: none"> <li>□事業等の実施効果を常に確認し、目標どおりの効果が出ていないものは、即やり方を見直す。</li> </ul> </li> <li>■業務の効率化を考え、実践する <ul style="list-style-type: none"> <li>□「なぜその方法で実施しているのか」など、問題意識を持ち業務に取り組む。</li> <li>□前例踏襲を是とせず、無駄は徹底して省く。</li> </ul> </li> </ul>	<p>ア 全体の奉仕者としての使命感に燃える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■公務員としてのプライドを持つ <ul style="list-style-type: none"> <li>□常に、全体の奉仕者として市民から頼られるためには、何をすべきかを考える。</li> <li>□声高な一部の意見に迎合しない。</li> </ul> </li> <li>■私事より公務を優先する <ul style="list-style-type: none"> <li>□各種事業の実施に係る動員などは断らない。</li> <li>□日頃から、災害発生時など突発的な勤務に対応できるよう準備する。</li> </ul> </li> </ul>	<p>ア 正確かつ公平・公正な事務執行能力を身に付ける</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■思い込みで事務処理をしない <ul style="list-style-type: none"> <li>□単に根拠法令等を覚えるのではなく、そこに書かれている趣旨を正しく理解する。</li> </ul> </li> <li>■徹底的に確認する <ul style="list-style-type: none"> <li>□分かり易い言葉で十分に説明できるスキルを身に付ける。</li> <li>□昨年の起案を考えることなく丸写しにしない。(単に日付を変えただけの文書を作成しない。)</li> </ul> </li> </ul> <p>イ 組織の目的を正しく理解し、自分の達成すべき目標を設定できる能力を身に付ける</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■自ら取り組むべきことを明確にした上で、確実にそれを達成する <ul style="list-style-type: none"> <li>□担当する業務について、いつまでに、何を、どのように進めるのかを整理した上で、進歩管理する。</li> </ul> </li> </ul>
--	---	--	--

<p>3 三 条 市 職 員 と し て の 土 台</p>	<p><b>ア 三条市らしさを追求する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■当市のアイデンティティである“ものづくり”にこだわる <ul style="list-style-type: none"> <li>□常に「ものづくり」のまちを意識し、取組を進める。</li> <li>□三条市の特徴を理解する。</li> </ul> </li> <li>■市勢、歴史、文化等を知る <ul style="list-style-type: none"> <li>□人口、地勢等の市勢情報を常に意識する。</li> <li>□地域の歴史や文化に関心を持つ。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>イ 一人一人が三条市役所</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■市長の補助職員であることを常に意識して仕事をする <ul style="list-style-type: none"> <li>□所信表明や施政方針を読み、各取組の方向感を確認する。</li> </ul> </li> <li>■常に市長の頭の中とシンクロする <ul style="list-style-type: none"> <li>□市長が自らの言葉で発信する情報をチェックする。</li> </ul> </li> <li>■市役所（三条市）の代表意識を持つ <ul style="list-style-type: none"> <li>□自分が三条市を表すその場その場の“市役所（三条市）の顔”であることを意識する。</li> </ul> </li> <li>■三条市職員として恥じない行動をとる <ul style="list-style-type: none"> <li>□常に市民の目を意識して行動する。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>ウ スピード感を持って決断し実行する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■いつまでに成果を出すべきかを考える <ul style="list-style-type: none"> <li>□先送りをせず、決断する。</li> <li>□評価につながるタイミングを逸しない。</li> </ul> </li> <li>■完璧よりも速さを重視する <ul style="list-style-type: none"> <li>□「巧遅は拙速に如かず」といわれるように、例えば完成していなくても、期限内に確実に提出・報告する。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>エ 成果主義に徹する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■仕事の成果は、結果が全てであるということを自覚する <ul style="list-style-type: none"> <li>□上げるべき成果とは何かを明確にする。</li> <li>□過去の成果や手法等に固執せず、最短で成果に導くためのプロセスを考える。</li> </ul> </li> <li>■自分を追い込む <ul style="list-style-type: none"> <li>□上げるべき成果や目標を公言する。</li> </ul> </li> <li>■パーフェクトを目指す <ul style="list-style-type: none"> <li>□些細なことにも気を配る。</li> <li>□妥協することなく、最善を尽くす。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>オ 明るく楽しく元気よく</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■目標の達成を喜びとを感じる <ul style="list-style-type: none"> <li>□ハードルの高さに比例し、達成の喜びも大きくなる。苦しい時こそ成長している時である。つらさ・苦しさの先にあるものを常に意識する。</li> <li>□一所懸命に取り組む。とにかく一所懸命に取り組む。</li> </ul> </li> <li>■人から頼られることを喜びとを感じる <ul style="list-style-type: none"> <li>□他からの信頼は日々の仕事の成果の良し悪しに対する評価である。周囲から頼られるよう業務に励む。</li> </ul> </li> <li>■笑顔で前を向く <ul style="list-style-type: none"> <li>□くよくよして下を向かない。自分の殻に閉じこもらない。</li> <li>□成功した時は素直に喜び、併せて周りに感謝する。</li> </ul> </li> </ul>	<p><b>ア 三条市愛を貫く</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■三条市のために、三条市民のためにを最優先に考える <ul style="list-style-type: none"> <li>□人口動態や財政状況等を把握した上で、次代まで住み継がれるまちとして発展していくための方策を考える。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>イ 自分の仕事をいとおしむ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■自分の仕事に誇りを持つ <ul style="list-style-type: none"> <li>□自分が仕事を全うすることで（、たとえ直接的に結びつかなくとも）、どこかで少しずつ市民の生活が良くなっている、ということを強く意識する。</li> </ul> </li> <li>■達成した理想の姿をイメージする <ul style="list-style-type: none"> <li>□でき上がった姿や様子を細部にわたりカラーで見えるくらいになるまでイメージを深める。</li> </ul> </li> <li>■達成感を噛み締める <ul style="list-style-type: none"> <li>□自分がこれまで成し遂げてきたことを改めて意識してみる。</li> </ul> </li> <li>■仕事の一つ一つの工程を大切に（やっつけ仕事にしない） <ul style="list-style-type: none"> <li>□どんな仕事であっても侮らず、注意力を切らさず全力で考え仕上げる。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>ウ 積極果敢に挑戦する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■組織としての信念を貫く <ul style="list-style-type: none"> <li>□組織（市・部・課）の果たすべき目標を正しく理解し、それに向けた変革をいとわぬ。</li> </ul> </li> <li>■議論をいとわない <ul style="list-style-type: none"> <li>□相手が上司であっても正しいと思うことはしっかり主張する。</li> </ul> </li> <li>■失敗を恐れない <ul style="list-style-type: none"> <li>□「できない」理由を探す前に、まずはやってみる。</li> </ul> </li> </ul>	<p><b>ア 始動力（リーダーシップ）を発揮する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■進むべき明確な道筋を示す <ul style="list-style-type: none"> <li>□政策・施策のくくりを鳥瞰図でイメージする。</li> <li>□世の中の大きな流れを把握し、相対的に物事を考え、判断する。</li> </ul> </li> <li>■率先して変革行動を起こす <ul style="list-style-type: none"> <li>□おかしいと思ったことはすぐに改める。</li> <li>□取り組むべきと感じたことや他の者の取組で共感したことはすぐに行動に移す。</li> </ul> </li> <li>■自分が正しいと思うことを広げるための工夫をする <ul style="list-style-type: none"> <li>□自分の主張を人の目に触れる形で発信する。</li> <li>□良いと思ったことは共感が得られるまで諦めずに言い続ける。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>イ 課題解決力を鍛える</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■現状を見える化する <ul style="list-style-type: none"> <li>□情報をできる限り数値化し、様々な観点で分析できるようにする。</li> </ul> </li> <li>■物事の本質を見極める <ul style="list-style-type: none"> <li>□取組の目的を正しく理解する。</li> <li>□表面的に物事を捉えるのではなく、そこに至った背景や要因をしっかりと把握する。</li> </ul> </li> <li>■固定観念（既成概念）にとらわれない <ul style="list-style-type: none"> <li>□自分の目で事実をしっかりと確認する。</li> <li>□多角的に物事を捉える。</li> </ul> </li> <li>■情報を収集するためのアンテナを研ぎ澄ます <ul style="list-style-type: none"> <li>□欲しい情報を明確にする。</li> <li>□周りへの目配り、気配り、心配りや、五感、六感を使い、収集すべき情報を見つける。</li> </ul> </li> </ul>
--	--	---	--